

2022年度 日本薬剤疫学会 チュートリアル

薬剤疫学の基礎と文献の批判的吟味・グループ討論

主催：一般社団法人日本薬剤疫学会

ご案内

日本薬剤疫学会が、その活動の一環として、薬剤疫学の文献を批判的に読み、理解する力を身に付けていただくことを目的として実施します。

文献を読む上で必要な薬剤疫学の基礎的な講義、文献の解説の後、小グループに分かれてディスカッションを行います。文献の事前入手に困難を感じる方は事務局までご連絡ください。

日 時：2023年2月11日(土)13:00～17:30

開催形式：オンラインセミナー(Zoom)

定 員：30名

講 師：久保田 潔 (NPO 日本医薬品安全性研究ユニット理事長)

小出 大介 (東京大学大学院医学系研究科特任教授)

佐藤 嗣道 (東京理科大学薬学部准教授)

大場 延浩 (日本大学薬学部教授)

近年、データベースの発展に伴い、薬剤疫学研究がコホート研究として実施されることが多くなりつつありますが、今回はフィンランドの抗精神病薬と乳がんに関する症例対照研究をとりあげます。

北欧では古くから様々な医療情報が複数の”registers”に集積され、多くの研究はこれらをリンクして実施されています。本研究でも入院患者に関する1969年からのhospital discharge register、薬に関する1995年からのprescription register、1972年からのがん登録(cancer register)がリンクされています。ケースは2000～2017年に乳がんと診断された女性で、5人までのコントロールが選択されています。ケース、コントロールともに1995年以前の抗精神病薬の使用については不明であるため、prolactin-sparing または prolactin-increasing の抗精神病薬の「使用期間1年未満」「1-4年の使用」「5年以上の使用」と乳がん発生の関連が検討されました。薬とがん発生のリスクの関連の研究のためには長期間をカバーするデータが必要ですが、古くからのデータが蓄積されているFinlandのデータでも、1995年以前に抗精神病薬を開始した患者さんの正確な特定は困難と考えられ、この点が本研究で症例対照研究のデザインが選択された理由の一つになっていると思われます。データベースを用いた症例対照研究の意義は何かなどを含めて多くの方と議論ができればよいと感じています。

◆次ページへ

文 献:

Antipsychotic use and risk of breast cancer in women with schizophrenia: a nationwide nested case-control study in Finland. Lancet Psychiatry 2021;8: 883–91.

申 込 方 法 : 参加申込書に必要事項をご記入の上、下記事務局チュートリアル係まで E-Mail 添付にてお申し込みください。メールの件名は「チュートリアル参加登録」としてください。

事前申込締切 : 2023 年 2 月 7 日(火)必着

当日参加について : 上記事前申込締切後、定員に余裕がある場合は、当日参加が可能です。
空き状況は日本薬剤疫学会事務局チュートリアル係にお問い合わせください。

参加費:**【事前申込】**

	会 員	非 会 員
企 業	4,000	6,000
アカデミア等*	1,500	2,500
学 生	1,000	1,500

*アカデミア等: 大学・医療関係者・官公庁など

【当日参加】

	会 員	非 会 員
企 業	5,000	7,000
アカデミア等*	2,000	3,000
学 生	1,000	2,000

参加申し込み・お問い合わせ先

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 5 階
一般社団法人日本薬剤疫学会事務局チュートリアル係
TEL: 03-5802-8603 E-mail: tutorial@jspe.jp

